

理研會報

発行 理研會報部
印刷 理研會報部
事務所 成田市成田50
成田小 成田小 成田小

今年はこの様なことを(その1)

実質的な研修を 一部会理科研究部

本年度才一部会理科研究部行導として、理科作品展への積極的参加、教研活動のための集會、授業研究、実験講習会等を計画した。

① 研究のための集會を多く持つ。
② 一人一人が研究の内容、方法を具体的に理解した上で、実験、探求する必要がある。
③ などという声も多く聞かれた。集會の場を多く持つという事は非常にもつとむべきことであるが極力努力したいと思っている。

我々の研修は、児童を離れた机上の研究であってはならない。実験講習にしても、やはり、授業の中でどのような技術的指導をしたらよいかということと結びつけたものでなければならぬ。教材の研究にしても、それがどのように実際の指導と結びついて

っと見えてきたこと」というわけだ。素人同様の未熟さをいゆといふほど知らされたというのが本音です。

私たちのグループ17名が歩んだあとは印刷物にまとめて各学校に配布いたしました。詳細はそれを読んでいただきたいと考へますがここにその概略を述べて参考に供したいと思ひます。

目標

○三里塚の帰化植物の全種類とそれが生えている環境(植物的・環境・植生)とを記録する。

感想

三里塚を起点として帰化した植物が、分布を拡げていくのにはなんらかの法則性がありはしないだろうか。

昨年の八月に現場が移転してがら急激に変貌し現在は昔日の面影は見られなくなりせんが、現在までにカラー写真四十枚、標本十数種を含めて数か所の植生の記録をとりました。本年もまだ残る草垣に生え続ける帰化植物を記録指導していく予定です。

三里塚帰化植物の研究(その後) 折目 庸雄

昨年のちよと今頃、この紙上

で「海之ゆく三里塚の帰化植物の姿を調べておこう」と呼びかけてから早一年、私たちは三里塚を中心に東西に帰化植物を求めて研究をすすめ大きな成果をあげました。といいたいところですが、その成果とは「数多くの断片に画面した」と「問題に向ふ方法がや

ナスビ、の二種類を選び出し、それを中心に分布と、分布を規制する要素を分析してみることにしました。そのために、それらがどのように分布しているかの実態をとらえるマクロな進み方と、その個体ごとのように成長し、どのように繁殖していくか、という比較的ミクロな進み方の両面を考へていくことにしました。

その結果、アラゲハンゴンの生活史はおぼろげながら明らかになりつつありますが、まだ、生える最低温度は?、発芽の条件は?、種子の飛散距離は?、等々研究には事欠きません。分佈に至っては限りある人員が、限られた時間の中で調査ですので、まだまだという段階です。この点で、本年度は郡下の先生方にアンケートをお願ひしてご協力をいただければ幸と考へております。

ワルナスビも同様の問題をかかえていまして本年度もそはと考へているのは上述のとおりです。

私たちは毎日、子どもたちに理科を教へ、探究の方法を指導しているのですが、自らそれに当たって探究の喜びを痛感し、感ぜさせられました。幸いグループの人々は意欲にあふれ、問題をいりこむ方向がらつつまじくわして飽くことのない人たちはばかりです。また本年度も歩みはじめました。おまじく締結はよいでしょう。研究もすすむかどうかが疑問です。しかし、その過程で私たちは大き

な勉強をしているんだという満足感、意味のあるものと期待して貰います。児童諸生及び同好の士のご指導をいただければ幸に存じます。

学校研究

理科研究の概要

船穂小学校

印刷指定の研究学校を引き受けて二年目、十一月十八日(水)に公開研究会を開く予定です。研究主題「事象の因果関係をたつきり把握させるにはどのような方法がよいか」

原因と結果の関係把握という点からいふと、結果としての現象と、原因としての変化するものと変化させるものとの三角関係をたつきりたせさせるにはどのような指導をしたらよいかといふことを主題としているのです。

研究内容

①問題解決的学習をさせる。
②観察実験の質的な吟味をする。
③という二つの仮説をもち、①については指導過程の基本型をもって学習させることとしています。

問題把握

「結果・結論」(まとめ)「発問・適用」の二つについては、実験観察の位置づけ、装置・器具・材料のくふう、方法や仕方の指導を吟味することにしています。

指導

一年生一学期の学校ですから、一つの単元は一年に一回しか指導できない。指導後に問題点を吟味し、なるほど、そのように指導す

ればよかつたのかと納得しても一年間待たなければならぬ。こんな悩みはありますが、他単元の指導に生かすようにしています。

昨年度からの研究ですが、指導

により、研究の方向がはっきりし

研究を導いている現状です。

十一月十八日の公開までには何とかまとまりのある研究にしたいと考へております。

○われらの研究部長の板橋英夫先生が文部省の才一回海外教育事情の視察団の一員に選ばれて来る六日二十四日から七月二十三日まで外遊されることになりました。約二週間、西ドイツとスイスの学校を視察の後、フランスイギリスそしてアメリカに渡りハワイを経て帰国される予定です。又号には、その才一報を掲載する予定です。

○成中理科センターは、中学校養護講習会を八月二十七、八の両日開催。内容は、事故防止、単分子膜、分子運動、天体観測、生物の分類について。

○今年はこの様なことをと掲載しました。研修計画、理科室の経営など、今年はこの様なことをと考へ、実践しておられる皆さんの指導をおよせ下さい。

○おもむく楽しみ、児童生徒の理科作品の指導もはげめはじめ

編集 集後記